



No.112 2021.6.11

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクス

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課



コミスク TwitterQR

明石コミュニティ創造協会さんの研修会に参加させていただきました



6月2日にウイズあかしで開かれた明石コミュニティ創造協会さん主催の「まちづくり事例上映会」に参加させて頂きました。オンラインで全国の参加者を結び、コロナ禍でのまちづくりを推進する事例報告として、滋賀県東近江市蒲生地区まちづくり協議会さん、島根県雲南市下熊谷ふれあい会さん、島根県雲南市新市いきいき会さんと、三つの地域からのお話をお聞きしました。明石会場の

ウイズあかしには市内のまちづくり協議会のメンバーさん等が参加され、熱心にメモを取りながら勉強されていました。また、全国からどんどんとチャットに質問が集まるのを見て、対面での研修会よりも質問しやすいのではと感じたりしました。

お話を聞く中でまちづくりの「空き家対策」「高齢者の移動手段」「地域内での就労」「ひとり親支援」といったものも視野に入れ活動され、様々な団体・組織とコラボしながら食材支援や基金づくりをおこなったりしていることを聞き、今の社会が抱えている課題に対して、市民として積極的に関わられる姿勢に大きな刺激を受けました。また、活動されている方が固定化され、50代や60代はまだまだ若手であり、担い手の育成が永遠の課題という現状等を聞く中で、「今、なぜコミュニティ・スクールなのか」、「今なぜ社会に開かれた教育課程なのか」が、社会の抱える課題という側面を通してからも見えてきました。学習指導要領の前文には「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」とあり、シチズンシップが強く打ちだされているように感じます。そこにはコミュニティ・スクールという仕組みの中で子どもも大人も共に市民として育ててほしいという願いが込められているのではと話聞きながら感じました。

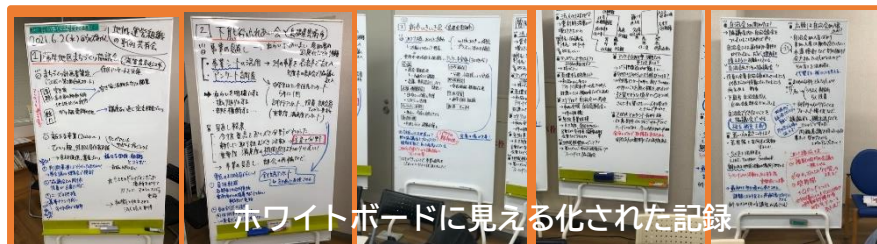
研修会が終わってから、いくつかの校区のまちづくり協議会の方と話をすることもできました。その中で「子どもの頃、地域のおっちゃんを見てあんなふうになりたいと思った。今その立場になって、ちょっとでもそう思ってもらえるようになりたいと思っている。」というこれこそコミスクというお話を聞き、地域の方にもコミスクの理解を深めて頂けるようにしていかないといけないという大きな宿題を頂きました。

また、今回の研修会に参加して、会の運営の仕方も学ばせていただきましたが、Zoomの画面を通してですが全国各地から参加されている方のお顔を見て、こうした全国的な集まりが身近な形で実施できるオンライン会議の可能性を感じさせられました。話の中でも地域の会議をオンラインでしたり、周知や連絡にSNSを活用したりと工夫されているのを聞

き、最近「子どもの欠席連絡を連絡帳だけというのは時代おくれ」といった投稿を目にしたりしますが、変えられるところはどんどん変えていく姿勢も必要だと思いました。また、そうしたデジタルの活用の中でも、「掲示板はやっぱり役にたつよ」といった話もあり、まさにデジタルとアナログのハイブリッドが当面は必要なんだと感じました。

まちづくりのこうした研修会にでて、初めて耳にする用語など新鮮ですが、ファシリテーターの大切さや、対話の見える化として、ホワイトボードでの記録、そしてプレゼン資料のわかりやすさなど勉強になることがいっぱい、刺激を受けました。

この研修会に参加して、まちづくりと学校づくりはつながっていると再認識するとともに、



ホワイトボードに見える化された記録

地域でコミュニティ・スクールの研修会等を是非検討していただけたらと思っています。

ありがとうございました。

“フィールドワーク”を通して広がるつながりの輪

5月29日に朝霧小区まちづくり協議会の有志の方が朝霧小の教職員を対象に企画された朝霧川環境学習フィールドワークの様子が神戸学院大学広報誌で紹介されました。

明石市の朝霧川環境学習フィールドワークで人文学部の矢嶋准教授が解説を担当しました

本学有瀬キャンパスは、2級河川の朝霧川流域に位置しています。この川でつながる明石市の朝霧小学校区まちづくり協議会環境部会有志が朝霧小学校の教員を対象に企画した、朝霧川環境学習フィールドワークが5月29日に行われました。

本学地域研究センターで明石地域と社会連携活動に取り組む人文学部の矢嶋准教授が、同協議会環境副部会長の西谷寛さんとともに解説係を担当しました。当日は、西原直人校長をはじめ、20人の朝霧小学校教諭が参加され、解説に耳を傾けました。

西谷さんは、朝霧川で子どもたちを対象に生き物観察会を定期的に行い、小学校で出前授業を行うなど、朝霧川環境保全活動に取り組んできました。矢嶋准教授は、地域研究センターに関連する科学研究として行った朝霧川の水害リスクに関する研究結果を人文学部の専門教育科目で講義しています。研究調査と社会連携を通じて知り合った西谷さんら朝霧小学校区まちづくり協議会からの要請で案内役を引き受けました。講義のプリントや研究論文を活用した配付資料が用意され、データも朝霧小学校に提供されました。

当日参加していた松本正史教頭より、「私たちにとっても大変貴重な機会となりました。資料データなどもぜひ、活用させていただきます」とお礼のメールもいただきました。

参照：神戸学院大学広報誌より



朝霧小は3年の環境体験で朝霧川をフィールドに学習されており、子どもたちも朝霧川を通して地域に目が向き始めています。こうした形でまち協さんが企画し、地域の大学とつながりができたことは、単元開発の幅を広げたり、子どもたちの学びに刺激を与えてくれるのではと思います。まさしく朝霧版 PBL、朝霧版 STEAM がスタートです。

(文責：北本)